

令和5年度 第1回花巻城跡調査保存検討委員会会議録

日時 令和6年1月29日（月） 午後2時

場所 花巻市石鳥谷総合支所 3階 大会議室

出席委員 高橋信雄 委員、関豊 委員、熊谷常正 委員、
室野秀文 委員、中村良幸 委員

オブザーバー 岩手県教育委員会事務局生涯学習文化財課 須川 翼 文化財調査員

傍聴者 なし

事務局 文化財課 佐藤 勝 教育長
菅野 圭 教育部長
佐藤幸泰 文化財課課長補佐
橋本征也 埋蔵文化財係長、菊池 賢 上席主査
酒井宗孝 文化財専門官、高橋 純 学芸調査員
吉田宗平 学芸調査員
花巻市博物館 松橋香澄 主事、佐藤絵美 学芸調査員

次 第

- 1 開 会
- 2 あいさつ
- 3 協 議
(1) 令和5年度 花巻城跡内容確認調査の結果について
- 4 そ の 他
- 5 閉 会

1 開 会

(司会：佐藤文化財課長補佐) 委員の皆様には、お忙しい中ご出席いただきましてありがとうございます。本日、文化財課長の鈴木が欠席となりましたので、課長補佐の佐藤が進行をさせていただきます。よろしく願いいたします。会議に先立ちまして、本日、オブザーバーとして、岩手県教育委員会事務局 生涯学習文化財課の 須川 翼 文化財調査員に、ご出席いただいております。ここでご紹介いたします。

続きまして、今年度第1回目ということですので、出席しております教育委員会職員をご紹介いたします。

教育長 佐藤 勝 (さとう まさる)

教育部長 菅野 圭 (かんの けい)

文化財課長補佐 佐藤 幸泰 (さとう ゆきひろ)

文化財課 埋蔵文化財係長 橋本 征也 (はしもと ゆきや)

文化財課 上席主査 菊池 賢 (きくち さとし)

文化財課 文化財専門官 酒井 宗孝 (さかい むねたか)

文化財課 学芸調査員 高橋 純 (たかはし じゅん)

文化財課 学芸調査員 吉田 宗平 (よしだ しゅうへい)

花巻市博物館 主事 松橋 香澄 (まつはし かすみ)

花巻市博物館 学芸調査員 佐藤 絵美 (さとう えみ)

ただ今より令和5年度第1回花巻城跡調査保存検討委員会を開催いたします。初めに、花巻市教育委員会教育長 佐藤 勝よりご挨拶申し上げます。

2 あいさつ

(佐藤教育長) 今日は大変お忙しい中、そして寒い中、ご出席いただいて大変ありがとうございます。また、県の生文課からも、須川さんにお越しいただきまして、大変ありがとうございます。前回、濁堀に関して様々なご指導をいただきまして、まずは景観を整えることができたということで、大変感謝申し上げたいというふうに思います。まず、景観の保全はできたのですが、今後この跡地利用については、まだ決まってないということです。また、人工物のコンクリートで造った駐車場に至るところ。あそこの処理等の問題もあつ

て、また今後とも色々ご指導頂く場面が出てくるかと思いますが、よろしくお願ひしたいと思ひます。さて、本丸の調査は予定した部分について、お陰様で調査を進めることができました。本日は、実施した内容或いは調査結果等について報告させていただきますが、いよいよ本丸の概要がかなり把握できてきたのかな、というふうに思ひます。また、これだけデータも揃って参りましたので、埋蔵文化財の発掘調査に加えて、今後、建築に詳しい建築士の専門の方に、検出されたものを見てもらいながら建築技法としてどんなことが考えられるか。それから、調査結果に合わせて、様々な『留書帳』とか『城代日誌』とか、様々な文献があるわけですが、ああいったところから、もっともっと精度を上げて、ピックアップしていく必要があるのかなど。ということで、そちらの方についても様々な知見を見ていかなければならない、というふうに思ひます。今日は、そういった調査結果について是非ご指導いただきたいと思ひますし、さらに、今後、本丸を中心として県の指定を目指していきたい意向がある訳ですが、そうした場合に、欠落している部分とか、まだまだこの辺について、しっかりした内容を押さえておかなければならないのだとか。そういったことについてもご指導いただければと思ひます。いずれ今日は、調査内容、本丸跡、それから土塁についてということで調査いたしましたので、忌憚のないご意見・ご指導をお願ひできればと思ひます。よろしくお願ひいたします。

3 協 議

(司会) それでは、次第3、協議に入りますけれども、ここからは「花巻城跡調査保存検討委員会設置要綱」第4条・第2項により、議長を委員長にお願ひいたします。

(高橋委員長) それでは協議に入りたいと思ひますが、審議会の公開に関することの規約がございますけれども、本会議を公開することにご異議ございませんか。

(委員) 異議なし。

(高橋委員長) それでは早速、協議(1)令和5年度花巻城跡内容確認調査の結果について、事務局から報告をよろしくお願ひいたします。

協議 (1) 令和5年度花巻城跡内容確認調査の結果について

(事務局) 説明 資料No.3 (菊池上席主査)

(高橋委員長) 詳細な報告がありました。想定はしていたものの、これほどはっきりと図面と遺構と時期と、それから本丸全体が視野の中に入ってきたというような印象を受けました。委員の皆様からご意見を頂きたいと思います。

(関委員) 確認です。土塁と整地層の新旧は、まだ分かっていないのでしたか？どちらが載っているとか、同時期と推定しているのか。

(菊池上席主査) 恐らくは、まだ土塁の断ち割りをしておりませんので整地層から土塁にかけてやはり切ってみないと分からないですが、あれだけ大規模な工事を行っているので、やはり同時期ではないかなというふうに考えておりますが。いずれ、それはまた台所門の周辺を調査するので、その時に切ってみたいと思います。

(関委員) まだ切っているわけではないのですね。

(菊池上席主査) まだ切っていないです。今回は「のぞき」だけです。

(高橋委員長) 今回は遺物も含めて非常に大きな成果が上がったと思いますし、我々が期待していたものが出てきたのではないかなと。

(熊谷副委員長) B群の建物は、具体的に何棟、どのくらいで、どのようなものであったかというのには分かりますか？

(菊池上席主査) ちょっとそこまではまだ想定出来ておりません。何しろあの通り、遺構があちこちに飛んでおります。ただ、あの広がり方を見ると古い段階の御殿の建物も、最後の辺りと近いような、割と大きい建物があったのかなという事は考えていいのではないのでしょうか。

(熊谷副委員長) 整地層を見る限り、中世の土層の上に一気に整地が行われていて、整地層の中に生活面があって、どうのこうのじゃないですよ。整地された段階で先ほどの遺構検出面に、順番的にB→Aという遺構があって。それが恐らく時代的な幅としては江戸時代の初期から幕末までずっと同じ面で生活面が形成されていたというふうにみていいですよ。

(菊池上席主査) そのように捉えられるのではないかと思います。

(熊谷副委員長) あと一つ。いわゆる「坪地業」として捉えたグループと「ピット群」として捉えたものが本当に区分できるのか。例えば、坪地業の中にも色んなバリエーションがありますよね。根石の有無とか、それから版築の具合とか。それと同じように、ピット群も坪地業の仕事の中の一つのバラエティじゃないか。確かに、ピット群と坪地業という

ことで分けて建物を考証するというためなのかもしれませんが、現実的に分けられるのかという気がする。

(菊池上席主査) そうですね。いわば基礎構造の違いだけで、上屋や外観は大差が無い事もあり得るでしょうから。

(熊谷副委員長) 普通こういった遺構は、我々縄文の竪穴住居の中で言うと、竪穴住居ごとにピット幾つって言うような形でやりますよね。それと同じようにこういった近世城館も含めて建物ごとに通しナンバー付けていくのですか。それとも検出段階だと、全部の調査時点で通しナンバー付けて、後で建物ごとにまとめていくものなのですか。どうなのですか。

(関委員) その時点で分かればいいのだろうけど、なかなかトレンチの大きさとかによって…。

(熊谷副委員長) さっき見たように、坪地業の中で100何号というのが出てくる。これからもやってくと結構な数になってきて、逆に混乱してしまうのじゃないかと。むしろ建物ごとというか。今、A群・B群、或いは東棟・西棟っていう分け方の中で整理していった方がいいのかなという。どうなのですかね、その辺は。この程度であれば大丈夫なのですかね。

(室野委員) 今回の成果で、この松川家の絵図っていうのはほぼ100%信憑していい。それで、このように対比が出来るようになってきましたので、一棟一棟に分けてですね、表示をした方が今後の整理はしやすい。

(熊谷副委員長) そうですね。そのほうが分かりやすいと思ひましてね。

(室野委員) 今まで色々な所の城館の報告書見ても、それやっているととやっているととやるところがあって。調査の時の番号のまま報告しているのもありますし、きちんと整理して、再整理して載せているところもあるのですけれど、やっぱり整理してもらった方が後の人たちは苦労しないで済むと思います。報告する時もそのほうが楽だと思います。

(関委員) これだけ図面に載ってくるのだからね。

(高橋委員長) 建物一つ一つが、言ってみれば分かっていたわけだから。建物一つ一つでまとめて。

(熊谷副委員長) ちょっと大変かもしれないけど。

(高橋委員長) 特にB群となった時にちょっと苦しい。

(室野委員) B群の建物は、まだどういう格好になるか分からないので、それはちょっと付けようがないと思うのですが。少なくともA群については、松川家の絵図に基づいて建物を区分して建物ごとの坪地業によって。

(熊谷副委員長) そのA群の建物については、あとどれだけ見つかっていないのか、確認できたのが何パーセント。確認できたから大体判明するのだというふうな形で出来ると思うので。そういった方法とかもいいかなという気がしました。

(佐藤教育長) こういうふうに曲がっていますよね。例えば、両方の建物で共有している坪地業もある？

(菊池上席主査) あるという事です。

(佐藤教育長) そこら辺の判別がちょっと難しいですね。

(菊池上席主査) そうですね、そこがちょっと課題です。

(中村委員) 一つ気になるのが、御殿の方が40cmくらい高くなっていますね。それは盛土したのか、あるいは地山を削ったのかというのは分かりますか。

(菊池上席主査) 盛土だと思います。

(中村委員) 盛土だとしたら、下手するとその下にもう一層か、何かがある可能性があるもので、その盛土がはっきり盛土なのか削りなのかというのをどこかでちょっと確認は出来ないかなと。下手すると、この出方見ると、その下にもう一層ぐらいありそうな気がしないでもない。

(熊谷副委員長) でも東側って台所除けばね、作業空間ですね、どちらかというところ。西側の方が本丸御殿という部分で。

(中村委員) だから、果たして最初からその高さで本丸御殿の土台が作られたのか、或いはどこかで盛り直したのか。或いは最初から平だったのかもしれないという可能性もあるので。どっかできちっと一カ所でいいから切ってみるっていうのは。そうした方が。いわゆる地山じゃないよね。何か盛っている感じがして。ちょっとそれを確認してみたら。なかなかB群がよく分からないって理由もちょっと…。

(熊谷副委員長) それは整備とか、何かの時に向かっての大きな課題でしょう。気にはなるけれども。

(中村委員) 気になるのは、このB群の出かたを見ると、もう少し本来は、同じ土台であればもう少し残ってもいいのだけれど、ちょっと残りが…。

(関委員) 何で捻れているのだろうね。

(佐藤教育長) 室野さん、捻れるっていうのは何か理由があるのですか？

(室野委員) 時期によってですね、向きが変わることはあります、確かに。建物群の一番メインの建物どこに合わせるかっていう。

(関委員) 御殿側の方が新しくって、正面向き直したってことですか。

(室野委員) これで見るとA群と言っているものの西側の御殿の方は、西側の堀の方向に合わせているのですね。本丸の西側の堀の。

(関委員) 西御門の方に向けて建っている。

(室野委員) そうですね。東棟の方は御台所の枡形の方に合わせている、方向で見ると。もちろん、広狭の問題もそれは。どうしてもそのままの方向で建てると具合が悪いという事で方向をずらすっていう事は、それは同じ時代でもやっている事はあります。

(佐藤教育長) 例えば地震など起きて土台がおかしくなった時に、緊急的にパッとやるなどということとは？

(室野委員) ちょっと地震との関係は分かりませんが。

(佐藤教育長) 使い勝手からすると、捻れた方が使いやすいっていうのはあるのですか？

(室野委員) だんだんと東に向けて狭くなっていますからね、花巻城の本丸は。狭くなっているもので、こういう方向に持ってこざるを得なかったのかなという感じがするのですがね。

(佐藤教育長) 台所御門からすれば、どういうふうな向きなのでしょうね。

(中村委員) 斜めに変に小さくなっているところって名前がついてないですよ。部屋の名前が。東の建物と西の建物と中庭は書いているけれども、名前が書いていないので。だから恐らく使っていない。使っていないというか、部屋として使っているのじゃなくて、倉庫とか物置とかに使っていてあまり普通を感じない。普通の部屋を感じだったら変だ。こんなのだったら使いにくい。何にも名前が書いてないので。納戸か何か、物入れか何かに使っていた感じですかね。ここだけ名前が無いのが変です。何でしょう。

(室野委員) 御台所門を調査する予定にはなってるのですけれども、その時例えば、御台所門の礎石がですね、高い方の盤で出てくるのか、低い方の盤で出てくるのかというのもだいぶ問題だと思いますね。もしかすると低い方の盤に合わせて東へ進むように造られているのかもしれない。やってみないと何とも分からない事です。

(高橋委員長) 報告書の段階でまだまだ検討してもらおう事が出て来ると思いますけれども、一応、内容確認調査の結果について、まだここを知りたいというのがあれば。

(関委員) 細かいことですが、この出土遺物の煙管っていうのは、この [火皿] の方と [吸口] は同じ個体なんですか。一緒に出たのですか？

(菊池上席主査) これは近くから出たと思いますけども。同一個体かどうかはちょっと不明でございます。

(関委員) 便宜的にこういう写真にしたのですね。

(菊池上席主査) そうです。イメージを画面にただけでございまして、同一個体かどうかは分かりません。

(中村委員) 獣骨の鑑定はどうするのですか？

(熊谷副委員長) 私がやってもいいです。

(中村委員) 5月に新潟医療福祉大学の奈良先生たちが住田の洞窟の調査に来るので。澤田純明君に預けてやれば調べてくれるのじゃないかな。でも熊谷先生が見てくれるなら。

(熊谷副委員長) この前、現地拝見した時には [カツオ] か。[ヒシクイ] か、[ガン]。かなり大きい鳥だという。淡水魚ではない。[ウサギ] の椎骨があったような気がする。保存状態がいいから、見る人が見ればすぐ分かる。

芝生を剥がした今の整地層の下にある、遺構検出面の上にある黒褐色土。結構、遺物を包含している。これは旧地表土という捉え方ですよ。

(菊池上席主査) そんなふうに捉えていました。何しろ、その黒褐色土を取らないと遺構を検出できないので、後々の土だと。

(熊谷副委員長) その面では遺構は出てこない。

(菊池上席主査) 見えないですね。

(熊谷副委員長) それを外さないとだめだという事ですね。すると、花巻城が廃城になって公園として整備されるまでの間の地表面というふうな理解でいいですよ。

(菊池上席主査) そのような理解でいいと。

(関委員) 耕作地だったのですか。

(菊池上席主査) 古い写真で畑のように見えますし。

(関委員) 耕作土の下部から旧地表面の間の土っていう事ですね。

(高橋委員長) あとございませんでしょうか。無ければ協議は、今日は結果についてだけ

という事だけですので。協議はここで終わらせていただきます。

4 その他

(司会) ご協議いただきましてありがとうございます。4のその他でございますけれども、事務局より2点ほどございます。1つは、令和6年度以降の花巻城内容確認調査の実施計画について、でございます。こちらの内容については、前回ご了承いただいている内容となりますので、確認の意味でご説明したいと思えます。説明は、橋本埋蔵文化財係長よりいたします。お願いします。

(1) 令和6年度の花巻城跡内容確認調査の実施計画について

(橋本埋文係長) 皆さんに配布しております、追加資料「花巻城跡内容確認調査実施計画(令和6年度予定)」というところです。こちらの方、表裏印刷となっているものがございます。

1ページ目につきましては、令和4年度の検討委員会の最後の3回目の会合の時に、ご承認・確認頂いた内容でございますので、省略させていただきます。2ページ目の調査計画の令和6年度というところ。これも前回ご承認頂いた内容でございますけれども、令和6年度につきましては、室内整理作業及び発掘調査報告書の刊行ということでして、野外調査は、一応この年は休止ということで、令和7年度からまた調査再開ということになります。3番目としまして、令和6年度の調査予定内容でございますけれども、室内整理です。平成30年度から令和元年度、令和3年度から令和5年度まで実施しました本丸跡、主に御殿跡の調査についての発掘調査報告書、第1期の調査分ということになりますが、その作成・刊行を行うという予定でございます。実施予定期間としましては、令和6年度の5月から来年の2月までの制作ということです。刊行報告書の体裁でございますが、本文、図版、画像、一部カラー掲載、200ページ前後を予定しております。以上でございます。

(司会) 来年度の計画ということと、それ以降の計画につきましては、資料のとおりということになります。

(2) 委員の皆様の任期について

(司会) あと、もう一つでございますけれども、委員の皆様の任期が今年度までとなっております。事務局といたしましては、引き続き委員の皆様には、委員をお願いしたいと考

えております。どうぞよろしくお願ひいたします。

(司会)以上の協議内容と、また、それ以外の事項につきまして、委員の皆様から何かございますか。

(熊谷副委員長)花巻市は、地域計画に最終段階に入っているかと思いますが、文化庁の認定も受けるものと思いますが、この花巻城については計画の中でどのように扱っているのでしょうか。

(司会)12月15日付けで地域計画の方は認定となりまして、令和6年度からということの計画になります。花巻城の関係につきましては、内容確認調査も含めまして、花巻城の保存・活用というような事業も盛りこんでいる形になっております。当初の部分については、既存事業を進めるような形になりますけれども、この計画を令和10年度に次に県指定を目指すというふうな形での計画を入れております。

(司会)よろしいでしょうか。その他はございますか。生文課さん、何かございますか。

(須川文化財調査員)今回初めてこの委員会に参加させていただきました。ありがとうございました。個人的に、まず、絵図とほぼピッタリ合うということで、それだけでも凄いなというふうに拝見しておったのですけれども。県指定の話等もございましたので、県としても引き続き支援は、こういった委員会への参加ですとか、地域計画も県内第1号だと思いますので、本当に色々なところで文化財関係は花巻市さんの方で取り組んでいらっしゃると思いますので、引き続きご協力をお願いしたいと思っております。ありがとうございました。

(司会)その他は、よろしいでしょうか。

6 閉 会

(司会)長時間に亘りありがとうございました。以上をもちまして、令和5年度第1回花巻城跡調査保存検討委員会を閉会いたします。お疲れさまでした。